

アーナンダ・クマール委員の主な意見

(「あいちビジョン 2020」のフォローアップについて)

- 「学術・研究機関の事業所数の全国シェア」の数値目標は、事業所数や従業員数だけではなく、中身が大事で、特許の申請件数や論文数などもあるのではないか。また、農林水産業県内総生産の全国シェアに関しては、植物工場などの次世代型の農林水産業がどれだけ生まれてきたのか、が大事ではないか。
- 観光に関する数値目標が入っていない。次期あいちビジョンには入れるようにしていただきたい。外国人からすれば、愛知・名古屋の認知度はまだまだ低い。
- 留学生や外国人住民に関する数値目標とか、空港利用者の数値目標などもあるのではないか。愛知県に来る外国人はビジネスマンが多い。一時的に観光で来る外国人だけではなく、ビジネス目的で日本に住んでいる外国人をもっと活用できないか。そのような在愛知外国人住民こそ、県のよき宣伝マンになってもらえる可能性は高い。日本での生活に関して課題はないとは言わないが、自分達の第二の故郷のように居住している愛知県、あるいは日本について愛着感を感じている外国人は多くいる。その存在の活用法を工夫する価値は十分にあるのではないか。
- 「健康寿命」も、愛知県の健康寿命が全国トップレベルということをもっと世界にPRすれば、医療ツーリズムにもつながるのではないか。人間ドックは 20 万円払えば、身体をフルチェックできるが、外国人の富裕層にとっては、それは高い金額ではない。課題は、いわゆる「外国語対応」だが、英語力向上などはそれほど難しい課題だとは思わない。特に日本は英語の運用能力（コミュニケーション能力）が低い、発展途上国を含むアジアの他の国々を見ると、できないはずはないと思う。問題は、国や地域によって異なる文化的背景なども含めた言語対応であり、その多様性についても理解を深めさせることより、その改善・解決はそれほど難しいことでもない。

(外国人との共生について)

- 高度人材に来てもらうとき、家族をどうするのが大きな課題で、特に子どもの教育。日本に来たいと思っても、子どもの教育環境の問題で断念することがある。また、インターナショナルスクールは数が少ないうえに学費が高い、教育内容の中身などに関する問題がある。

- 地域の中に外国人の居場所があるとよい。特に子どもたちと外国人が触れ合う場があるとよい。日本の人社会においても昔のような住民の交流活動は希薄になりつつある中、そのような活動にはいまだに外国人が参加しにくい環境はある。特に子どものうちから外国人と触れ合う機会を創出させることで、外国人への理解を深めることになり、世界を意識してもらうことにもつながる。留学生を地域社会に派遣して、様々な交流を行ったりすれば、お互いの理解が進む。

(グローバル化への対応について)

- 日本でもグローバル人材の育成が必要だが、大学の外国語学部でも、読み書きはできても、しゃべれない人が多い。英語の運用能力を高めていく必要がある。まずは自分の考えを日本語で発言できること。これができない日本人も多い。次に、同じ考えを文化背景や使用言語が異なる人々への英語などの外国語で発信できることである。重要な点の一つは、物事に対する単なる「通訳」「翻訳」だけでなく、彼らの持つ文化などの側面にも配慮した情報を発信できること。
- アジアでは富裕層も増えるし、今までモノを買ってくれなかった人が、モノを買うことができるようになる。途上国においては、開発に関する様々な課題はいまだに残っている中、無収入の人々は何らかの収入を得たり、低所得の人々はより収入レベルの高い収入を得られるようになってきたり、社会の大変化が起こりつつある。その現状を十分に理解してもらう必要はある。
- 日本では、欧米諸国のほかに東アジアや東南アジア諸国に関する情報が多いが、実は南アジア諸国においても、上記（新しい客層）となる人口が増加している。新しい消費が生まれるということ。南アジアは非常にポテンシャルが高い。先進国の2～3倍くらいの値段にもかかわらず、アジアの途上国では、高級車がたくさん街中を走っている。世界の富裕層相手のビジネスで、日本はまだまだ頑張ることができるのではないか。

(魅力発信について)

- 観光分野に関して有名な他の地域と同じイメージを作ることも大事かもしれないが、そのような活動の持続可能性を考え、他の地域と差別化を図らないといけない。愛知・名古屋が差別化できるのは「技術」の側面だと言える。産業観光は、見てもらうだけではなくて、ビジネスにまでつながるような仕組みがあるとよい。愛知なら、他に先駆けてやる能力があると考えたい。

- 教育界やビジネス界でリーダー的に活躍している外国人を生かして、この地域の魅力を発信してもらってはどうか。彼らは、自国の有力者にネットワークを持っていたりするので、外国投資、企業立地、マーケティング、政治などいろんなことに影響を与えることができる。場合によっては、自らが中心となり新規ビジネスを立ち上げたりすることも期待できる。

- JETROなどと一緒に大使館とも連携して、日本製品のプロモーションイベントや工場見学ツアーをやってはどうか。アジアの途上国は、日本の技術に非常に興味を持っている。これらの活動に関しても、在日の有力な外国人に手伝ってもらうことが、より効果的だと考えられる。

- 愛知県はモノづくりだけではなく、東三河などの農業も盛ん。観光という面でみたら、従来の世界遺産のような観光ではなく、隠れた観光への関心が高くなっている。グリーンツーリズムのような、地域に当たり前にあるようなものが観光資源として価値が高くなったりしている。また、ハウス栽培などにも外国人の関心が高いと感じている。農業分野に携わる人々が多いとされるアジアの発展途上国では、最近、「健康」を意識した農産物などへの関心度が高くなっている。日本からの農産物の輸出よりも、その技術そのものの輸出を目指したグリーンツーリズムに力を入れることもよいだろう。